



立教大学

グローバルリベラルアーツ×リーダーシップ教育×自己変革力

～ 世界で際立つ大学への改革 ～

「カリキュラム」の改革、「学生の意識」の改革、「ガバナンス」の改革を強力に推進

「カリキュラム」の改革

●RIKKYO Learning Style（学士課程プログラム）の開始

学士課程の4年間を「導入期」「形成期」「完成期」の3区分に分け、学生が各自の目標を設定し、自立的に学ぶ仕組みを平成28年度入学者から導入。

●Global Liberal Arts Program（GLAP）の開設

リベラルアーツを英語で学ぶ少人数教育プログラムを平成29年度から開設。寮生活や、海外のリベラルアーツ校への留学などを通じて、国や地域を超えて人々と協力し行動を起こすことができる新しいグローバルリーダーを育成。

●グローバル教養副専攻の開始

学部の専門性に加え、横断的な知識の習得を目指し、平成28年度入学者から副専攻制度を導入。多面的に物事を考える力を育成する。「Arts&Science Course」「Language & Culture Course」の2コースを先行開始。

●国際連携大学院プログラム（リンケージプログラム）等英語コース開設

公共経営学を英語による授業のみで修了できるリンケージプログラムを平成28年度に開設。インドネシア6大学と連携し学生の受入を開始した。異文化コミュニケーション学部・研究科等でも、英語によるコースを開設。



GLAP協定校の一つサウス大学（米国）



国際連携大学院プログラム協定校からの訪問の様子

「学生の意識」の改革

●Global Leadership Program（立教GLP）の拡充

全学部・学年の学生を対象に、企業が提示するプロジェクト課題に少人数のグループワーク形式で取り組み、誰もが発揮できるリーダーシップスキルを習得。体育会の研修にもリーダーシップ研修を取り入れ、正課外へも展開。

●立教サービラーニング（RSL）の開始

フィリピンのトリニティ大学と連携した海外プログラムなども含め、「体験」を知識や理論に関連付けながら学びを深めていく新たな学びの形態を全学に展開。

●海外プログラム参加者数の増加

平成25年度に631名だった海外プログラム参加者数は、平成27年度には1,014名までに大きく増加。留学生との交流イベントなどを通じて学生の海外への志向が高まっている。

●ファーストタームプログラム（学びの精神）

「導入期」にあたる1年次の春学期に、全新生を対象として、学びの精神（なぜ学ぶのか）、学びの技法（どのように学ぶのか）という2つのテーマで、高校とは異なる学びに適應するための科目を展開。自ら調べて考える、大学での学びの姿勢を育成。

サービラーニング
フィリピンプログラムの様子

留学生との交流イベントの様子

「ガバナンス」の改革

●国際化推進機構の設置

国際的な教育・研究及び学生交流の拡充と高度化のための施策の検討を行うことを目的に、平成27年4月に国際化推進機構を設置。国際化推進担当副総長が機構長を務めるとともに、国際化推進会議の推進責任者を兼ねることにより、迅速な事業推進を可能とする体制を整備。

●入学試験における英語資格・検定試験の活用

平成28年度一般入試より、「グローバル方式」を導入。4技能を測定する6種の英語資格・検定試験を活用し、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）でB1レベル以上を出願資格として適用。

●ナンバリング、GPA、四半期制度の導入

RIKKYO Learning Styleなどのカリキュラム改革と連動し、平成28年度から全学でナンバリング、GPA制度、四半期制度を導入。海外大学との交流プログラムをよりスムーズに実施する仕組みを構築。

●中長期計画の策定と推進

創立150周年にあたる平成36年に向けて、中長期計画「RIKKYO VISION 2024」を策定。平成26年に策定した国際化戦略「Rikkyo Global24」を包含し、3つのバリューと9つのアクションプランを推進。



3つの改革を連動し効果を最大化

Lead the Way

自分、世界、そして未来を拓く
Rikkyo University is leading the way.

「RIKKYO VISION 2024」のロゴ

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】



立教大学

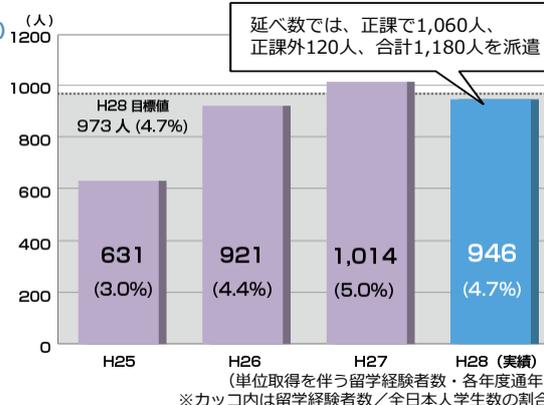
「カリキュラム」「学生の意識」「ガバナンス」
の3つの改革の推進により成果を上げた3項目

特に成果が上がった項目①

日本人学生に占める留学経験者数 (TGU共通指標) (人)

「成果を上げた具体的な取組」

- 学生の多様なニーズに合わせたプログラムの構築 (カリキュラム改革)
- 専門スタッフの配置による各学部海外プログラムの積極的な開発
- 留学生との交流や留学体験談を共有するイベントなどによる意識の向上 (学生の意識の改革)
- 国際性を志向した入学者選抜やカリキュラム改革

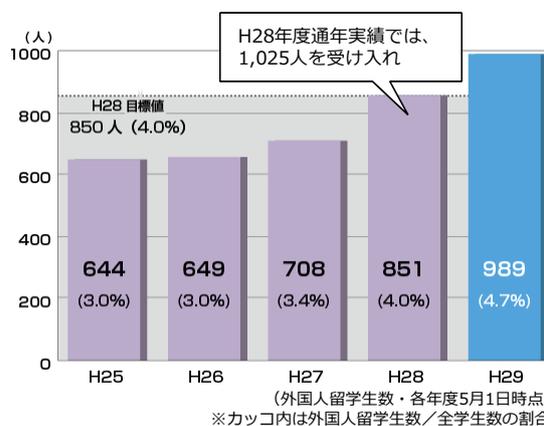


特に成果が上がった項目②

全学生に占める外国人留学生数 (TGU共通指標) (人)

「成果を上げた具体的な取組」

- 協定校の拡大による留学生受入
- 日本語短期プログラムをはじめとする本学の特徴を活かした短期プログラムによる留学生受入
- リンケージプログラムをはじめとする英語コースへの留学生受入 (カリキュラムの改革)
- 出願・入学手続のWeb化、国際交流寮などの整備 (ガバナンスの改革) による受入環境の充実

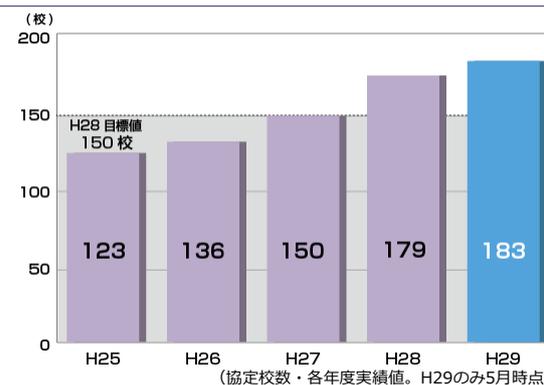


特に成果が上がった項目③

海外協定校数 (本学国際化戦略における指標) (校)

「成果を上げた具体的な取組」

- 国際会議への積極的な参加と海外大学との交渉 (ガバナンスの改革)
- 5つの海外拠点（ソウル、ニューヨーク、ロンドン、上海、ジャカルタ）を通じたネットワークの構築
- Global Liberal Arts Programにおけるリベラルアーツ校との連携 (カリキュラムの改革)



●大学の国際化を進める改革先導型プログラム
: Global Liberal Arts Program (GLAP) の展開

「GLAPの5つの特徴」

1. 【英語で学ぶ】世界を視野に、リベラルアーツを英語で学ぶ
2. 【少数教育】一人一人に主体的に行動する意識が芽生える
3. 【留学生との寮生活】寮生活を通して国際感覚を養う
4. 【1年間の海外留学】海外でリベラルアーツの神髄を学ぶ貴重な経験
5. 【帰国後の専門教育】視野を広げ経験を重ねた上で、より深く学ぶ分野を選択

